



# めざせ! 南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学校 便り

令和6年 7月国際交流号

ヨハネスブルグ日本人学校

## オランダ子どもの家(孤児院)との国際交流を行いました!



5月4日にオランダ子どもの家を表敬訪問しました。温かく迎えて下さったマジブコ院長先生は、日本人学校の教職員の現地理解研修の一環であることをよく理解して下さい、子供の家の歴史や状況などを丁寧にわかりやすく説明して下さいました。その時もオランダの子供たちは、とても立派な態度で温かく迎えてくれました。日本政府や日本人会との関わりも深く、5年前に日本政府の資金援助によって、ソーラパネルをもつ、立派な体育館が建てられました。コロナ禍で実施を見送っていた時期を除いて日本人学校との国際交流も十数回を数えます。



7月6日に行った、今年度2回目の国際交流と位置付けた交流は、心温まる交流となりました。子供たちは、数回の事前学習や準備時間を費やし話し合いも重ねながら当日を迎えました。ペアになって直ぐに会話が弾む子どもも多く、「G1からG4チーム」と「G5からG9チーム」の2つのチームに分かれての活動となりました。日本人学校のシアハンバの歌と踊りに対し、南アの伝統的なズールーダンスを披露してくれました。紙皿を使う独楽作りもきれいな色の変化を楽しみ、椅子取りゲームや集団での縄跳びも笑い声が絶えない貴重な交流の経験となりました。ペアになった者同士がしっかりとお互いの表情を確かめながら、交流を通して直接触れ合い、臆することなく英語での会話も行いました。ホームの子供たちは、日常、ズールー語を話すことが多いようですが、互いに一生懸命に触れ合う姿は貴重な経験となっていることを実感しました。



事後の感想や記録を読むと、ホームの子供たちが理由あって、家族と共に過ごすことができない環境で皆と助け合い理解しながら力強く生活する彼らのエネルギーを感じ取った子供たちも多くいました。

交流によって、JSJの一人一人の子供たちが得られた貴重な体験。そしてオランダの子どもたちの将来に、今回の交流が記憶に残り、近い将来、その種がいつか大きくは花開くときが来ることを期待します。



マジブコ院長先生、オランダの子供たち、招待してくれてありがとう!  
来年の国際交流を楽しみにしています。

### オランダ子どもの家 「オランダ・チルドレンズ・ホーム」

1940年に設立され、2代目のマジブコ院長と共に多くのスタッフが、子供たちの将来を考え、愛情をもって指導にあたっています。日本政府や日本人会との関わりも深く、政府関係者や芸術家の方々が訪問されたこともありました。日本人学校との国際交流を行う際の開会式や閉会式、お互いの伝統的な踊りの披露も、政府の資金援助によって建てられた体育館で行っています。

この孤児院は、よく耳にする黒人居住区であるヨハネスブルクの南西部ソウェト(SOWETO)にあり、地名の由来は、SOuth WEst TOwnshipsの略です。日本では、高等学校の世界史等で人種隔離政策であったアパルトヘイトやソウェト蜂起について学ぶ機会があるようです。日本人学校では、南アの歴史を学びながら、人権教育にも力を入れています。